

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年6月号

- ◇ 【調査レポート】 ニューヨークオートショーと米国のEV 進展への取組 P.1
- ◇ 【NYライフ】 クロイスターズ美術館 P.3
- ◇ 【ニュース一覧】 P.4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



調査レポート

－ ニューヨークオートショーと米国のEV進展への取組 －

2022年4月17日～24日にかけて、「ニューヨーク国際オートショー」が3年ぶりに開催されました。今回は、ショーの様相と今後の米国におけるEV（電気自動車）充電器設置の進展についてレポートします。

1. 今年のニューヨーク国際オートショーの特徴

ニューヨーク国際オートショーは、毎年春に開催される国際自動車展示会で、1900年から続く米国最古のオートショーです。今年のオートショーには25ブランドが出展し、日本車メーカーは3社（LEXUS等米ブランド除く）が出展しました。コロナ禍明け間もない開催であり、例年に比べて参加したブランドの数は減少しましたが、EV（電気自動車）の存在感が際立っていました。

2. 展示の内容

(1) EV車

表1は今回のショーで展示されたEV（PHEV除く）車の一例です。日産の「Leaf」をはじめ、各車種ともに航続距離は300km、価格は300万円以上のEVが展示されていました。また現地のニューヨーク州や市では、EV車向けの助成金や税優遇制度を導入するなど、自治体による普及促進も積極的に進められています。

表1 各メーカーのEV車と自治体インセンティブ

メーカー	車種	航続距離	価格	ニューヨーク市助成金	州税還付金
日産	Leaf	362	356	26	98
シボレー	BOLT	414	410	26	0
ヒョンデ	Kona Electric	413	442	26	98
ヴェンファスト	VF9	467	529	0	0
キア	EV6	371	532	26	98
フォルクスワーゲン	ID4	400	536	26	98
フォード	Mustang March-E	337	571	7	98
インディ	Indi One	480	585	0	0
ボルボ	XC40 Recharge	362	672	7	98

(単位：航続距離はキロ、それ以外は万円(1ドル130円))

(2) アジア勢が健闘

今年のオートショーでは、欧州ブランドなどが車の展示スペースを例年より縮小する一方で、韓国のHyundai、KIAが広い展示スペースを確保。更にHyundaiのEV「IONIQ5」が本オートショーの2022年「ワールドカーオブザイヤー（EV部門、カーデザイン部門含む）」を受賞するなど、アジア勢の健闘が目立ちました。またベトナムからは新興メーカー「VinFast社」が出展するなど、現地で話題となりました。



VF8 (VinFast)

(3) 「電動移動」に関わる展示

出展社数が例年に比べ少なかったこともあり、会場内には騒音や排気ガスを出さないEV車専用の臨時的試乗コースが設営され、来場者にも非常に好評でした。またEV充電器などインフラ設置を後押しする団体や企業のブース、米国で通勤手段としても利用されている電動キックスクーターや子供用の電気自転車のブースもあり、車だけではなく「電気で動く乗り物」の展示も今回のショーのコンセプトの一つとなっていました。



会場内を走るEV試乗車

3. EV 充電器設置の推進

(1) 充電器設置の推進

展示会では当地の電力会社「Con Edison 社」がブースを設け、充電器設置のスケジュールやガソリンとのコスト比較、実際の充電方法などの啓蒙活動を行っていました。ニューヨークで充電設備の普及活動を行う団体「Empire Clean Cities」のパートナー Gillie 氏からは、「ニューヨークはまだ EV 充電設備が足りない状況であることから、普及に向けた活動を行っている。またクリーンエネルギーへの転換においては他州に先駆けているが、EV に関連する部品・製品を製造する企業は少ないのが現状。私は中古トラックの販売事業を営んでいるが、昨年 EV 製造にかかわる人材紹介のスタートアップ企業を立ち上げた。EV にはビジネスチャンスがあり、世界中の投資資金が集まってきている。日本からの投資にも期待している。」との話を伺うことができました。



電力会社 Con Edison の展示

環境対応をベースとした EV の広がり、投資領域や投資機会の拡大にも繋がっており、世界的に注目が高まっていることが伺えます。

(2) 政策の後押し

最近では、日本国内でもテスラなどの電気自動車をよく見かけるようになりましたが、ニューヨークでは日本以上に街中で EV を見かけます。一方で、公共で利用可能な充電器の設置に関しては、ニューヨークにおいても依然拡大余地があります。表 2 は各国の公共の充電器数と EV 保有台数を比較した表ですが、米国は充電器 1 台当たりの EV 台数が多い状況です。

表 2 各国の公共充電器数と EV 保有台数

	充電器数 (2021年) -①	EV保有台数 (2020年) -②	充電器1台当 りのEV台数②/①
中国	800,000	3,512,477	4
オランダ	75,000	182,481	2
ドイツ	45,000	330,780	7
米国	43,000	1,138,654	26
フランス	35,000	281,603	8
日本	29,200	136,700	5
イギリス	26,000	207,441	8
ノルウェー	16,000	339,105	21
インド	2,000	12,739	6

出所：AUTO CAR UK, IEA

バイデン政権は、2030 年までに新車販売の半分を EV にする目標を掲げ、普及に向けた政策を打ち出しています。その一つが昨年 11 月に成立した超党派のインフラ投資雇用法で、EV 用充電器の設置に向けた 75 億ドルの予算のうち、50 億ドル分を「EV 充電プログラム」の具体策に充当します。同プログラムは、米国内の EV 充電器のネットワークを拡充するため、州政府を対象に助成金を支給する制度です。5 年間の助成期間の間に充電器の普及をどこまで後押しできるのか、注目を集めています。

表 3 州別充電器ステーション数
(2020 年末時点)

州	ステーション数
カリフォルニア	7,045
ニューヨーク	1,883
フロリダ	1,626
テキサス	1,467
ワシントン	1,129
コロラド	971
マサチューセッツ	953
ジョージア	943

出所：JETRO

4. おわりに

環境問題への意識が一層高まる中、二酸化炭素を排出しない動力源である電気への注目は今後も高まっていくものと思われます。各国の政策やトップの政治スタンスで大きく変化する可能性を秘めている一方で、変化は新たなビジネスチャンスと投資機会を提供します。当事務所では今後とも動向を注視して参ります。ご質問等ございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

(お問い合わせ先：newyork@joyobank.co.jp)

【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

ークロイスターズ美術館ー

マンハッタンの北端、ハドソン川に面した静かな丘の上に建つ中世風の建物は、クロイスターズ美術館(The Cloisters)です。メトロポリタン美術館の別館で、中世ヨーロッパの美術や建築に特化しています。「クロイスター」は「回廊」という意味で、フランスから移設された修道院の回廊で建物が構成されている珍しい美術館です。1930年代に5つの回廊が解体された状態で持ち込まれ、この場所で再構築されました。



急な坂を上りながら徐々に街から離れると、丘の上に中世風の建物が見えてきます。外観もとても趣がありますが、建物内に入ると更に別世界のような雰囲気です。入口を入るとすぐに、修道院から移設された大きなフラスコ画が目に入ってきます。さらに奥の部屋へと続く装飾戸口、スペインの教会から移築されたチャペル、ヨーロッパ各地の教会から集められたステンドグラスの窓など、建物自体が所々美術品で構成されています。名前の由来になっている回廊もよく見るとそれぞれ特徴があり、それらが一つの建物として再建されているのがとても面白いと感じました。この美術館には現在、彫刻、絵画、タペストリー、写本など、12世紀から15世紀の作品を中心に約5,000点の中世西洋美術品が収蔵されています。回廊やステンドグラスの窓から入ってくる優しい自然の光の中、美術品に囲まれた静かな空間で、のんびりと穏やかな時間を過ごしました。

建物の外にあるテラスからは、ハドソン川と対岸の雄大な景色を見渡すことができます。展示だけでなく、建物全体や立地、そこから見える景色までが一体となって作り出す雰囲気は幻想的で、当時のヨーロッパへタイムスリップしたような感覚になりました。マンハッタンの中心部から地下鉄で30分程とアクセスも良いので、庭園の植物が茂る緑の季節や、対岸の紅葉が美しい秋にも訪れてみたいと思います。



【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

ニュース一覧

(2022年4月下旬から2022年5月下旬のニュースを抜粋)

●政治

- ・バイデン大統領、8億ドル規模のウクライナに対する追加軍事支援を発表(4/21)
- ・ホワイトハウス、バイデン大統領が5/20-5/24に日韓を訪問することを発表(4/27)
- ・バイデン大統領、ジャンピエール氏を報道官に起用、初の黒人女性(5/5)
- ・米政府、戦略石油備蓄補充で今秋6,000万バレル入札へ(5/5)
- ・バイデン大統領、1.5億ドルの対ウクライナ追加軍事支援に署名(5/6)
- ・米商務省、ウクライナ鉄鋼への関税一年間停止、ロシア侵攻による打撃踏まえ(5/9)
- ・イエレン財務長官、FRBは景気後退を引き起こさずにインフレ抑制可能(5/12)
- ・米上院、中絶権利保護法案の本会議審議入り否決(5/11)
- ・バイデン大統領、北欧2国のNATO加盟を支持(5/13)
- ・米・ASEAN首脳会議、関係を格上げへ、バイデン大統領「新時代」(5/13)
- ・バイデン大統領がバッファロー銃乱射事件を非難、白人至上主義は「毒」(5/17)
- ・米コロナ新規感染者が拡大傾向、NY市は警戒レベル引上げ(5/17)

●金融政策

- ・セントルイス連銀ブラード総裁、FRB、年内に3.5%まで利上げへ(4/18)
- ・シカゴ連銀エバンズ総裁、FRB、年末までに2.25-2.50%に利上げへ(4/19)
- ・ブレイナードFRB理事のFRB副議長昇格へ、上院が承認(4/26)
- ・パウエルFRB議長、75BP利上げは積極的に検討せず(5/4)
- ・FRBがFOMCで50BP利上げ、資産圧縮6月開始、インフレ抑制急ぐ(5/4)
- ・アトランタ連銀ボスティック総裁、「2-3回の」50BP利上げ可能(5/9)
- ・リッチモンド連銀バーキン総裁、FRB、中立水準達成後に一段の措置必要か判断(5/10)
- ・ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁、FRB、6・7月会合で50BP利上げ「理にかなう」(5/10)
- ・クリーブランド連銀メスター総裁、米50BPの利上げ「完全に理にかなう」(5/10)
- ・サンフランシスコ連銀デーリー総裁、今後数回の会合で50BP利上げに支持表明(5/12)
- ・パウエルFRB議長、インフレ低下の確証なければより積極的な行動検討も(5/17)
- ・シカゴ連銀エバンズ総裁、中立金利上回る利上げ想定、7・9月のペース鈍化望む(5/17)

●経済指標

- ・中古住宅販売戸数:3月は577万件と2ヵ月連続で減少(予想は580万件)(4/20)
- ・消費者景気信頼感指数:4月は107.3と前月の107.6から低下(予想は108.0)(4/26)
- ・国内総生産(GDP):1-3月速報値は前期比年率-1.4%で7四半期ぶりの縮小(4/28)
- ・ISM製造業総合景況指数:4月は55.4と前月の57.1から低下(予想は57.6)(5/2)
- ・失業率:4月は3.6%と前月の3.6%から横ばい(5/2)
- ・コアCPI(除食料・エネ):4月は前年同月比+6.2%と減速(5/11)
- ・小売売上高:4月は前月比+0.9%で堅調に推移(予想は+0.9%)(5/17)
- ・住宅着工件数:4月は前月比-0.2%の172.4万戸(予想は175.6万戸)(5/18)

(出所:各種新聞等)